

令和5年度 生活デザイン学科 専門科目 シラバス

科目名	ファッションデザイン演習Ⅱ Fashion Design Ⅱ	単位数	2
	必選区分	選択	
開講学科	生活デザイン学科FD専修（2年前期）	科目区分	演習
担当者	福村 愛美	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	デザインに沿った衣服を表現するための知識・技術を習得することを目的とし、以下の4点を到達目標とする。 (1) テーマに沿ったデザイン表現力と、アイデアソースとなる情報収集能力を身につける。 (2) デザインを衣服として表現するためのパターンメイキング能力を習得する。 (3) デザインイメージに合った素材の選定と扱い方を理解する。 (4) 様々なデザインに対応できる知識や技術を身につける。		
授業概要	ファッションデザイン演習Ⅰで習得したファッションデザインの発想技法およびファッション造形演習Ⅰ、Ⅱで習得した衣服構成の基本的な知識・技術をもとに、各自がテーマに基づきデザインからパターンメイキング、縫製までを行い、平面であるデザインイメージを立体である衣服として表現するための知識・技術を課題作品の製作を通じて習得する。テーマによっては、アイテムを指定することがある。 【SDGs : 12】		
授業計画	① デザイン(1) テーマ提示 ② デザイン(2) デザインチェック ③ パターンメイキング(1) 採寸、原型展開 ④ パターンメイキング(2) デザインパターン ⑤ パターンメイキング(3) デザインパターン、パターンチェック ⑥ パターンメイキング(4) 仮縫い ⑦ パターンメイキング(5) 試着、補正 ⑧ パターンメイキング(6) パターン修正 ⑨ パターンメイキング(7) 印・縫い代つけ ⑩ 縫製(1) 裁断、芯貼り ⑪ 縫製(2) 表地 ⑫ 縫製(3) 表地 ⑬ 縫製(4) 裏地 ⑭ 縫製(5) 裏地 ⑮ 縫製(6) 仕上げ ⑯ 着装発表、作品提出		
予復習等	【予習】 前の授業で提示された課題に取り組む。 【復習】 授業で行った内容について確認を行い、次の授業に備えて課題を進める。		
評価方法	出席状況・受講態度20%、提出作品・その他提出物80%、		
履修条件	製作に必要な材料費(製図用具、生地、副資材等)は受講生の負担とする。		
教科書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①服飾造形の基礎(文化出版局)、配布資料		
参考書	授業内で適時紹介		

科目名	ファッション造形演習Ⅲ Fashion Making Ⅲ	単位数	2
	必選区分	選択	
開講学科	生活デザイン学科FD専修（2年前期）	科目区分	演習
担当者	柴田 佐和子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ジャケットの製作を通して、より高度な衣服造形技術を習得するとともに、様々なデザインに対応した製図能力を身につけることを目的とする。 ジャケットのパターン制作やパターンの展開について理解し、衣服構成のためのより高度な知識と技術を習得する。また、合理的な縫製方法や手順を学ぶことで、縫製技術を習得する。さらには、様々なデザインに対応できる衣服造形の知識や技術を身につける。		
授業概要	ファッション造形演習Ⅰ・Ⅱで習得した基礎的な知識・技術をもとに、ベーシックな裏付きテーラードジャケットまたはノーカラージャケットを制作する。ジャケットの基本的な身頃構成と2枚袖の製図方法を理解する。さらに、工業生産に対応できるジャケットのパターンメイキングを理解し、縫い代付きのパターン、裏身頃の展開方法、芯地のパターンの作図方法、裁断、合理的な縫製、アイロン操作までを製作を通じて習得する。 【SDGs : 4, 9, 12】		
授業計画	① ジャケット(1) ジャケットの構造、基礎知識 ② ジャケット(2) 原型操作、製図、展開(1/2サイズ)、デザイン決定 ③ ジャケット(3) 原型操作、製図(実物大)、パターンチェック ④ ジャケット(4) 仮縫い ⑤ ジャケット(5) 仮縫い、試着、補正 ⑥ ジャケット(6) パターン修正、印・縫い代つけ ⑦ ジャケット(7) 裏地・芯地・パーツパターン作成、印・縫い代つけ、パターンチェック ⑧ ジャケット(8) 裁断(表地、裏地、芯地) ⑨ ジャケット(9) 芯貼り ⑩ ジャケット(10) 縫製(身頃) ⑪ ジャケット(11) 部分縫い(ポケット) ⑫ ジャケット(12) 縫製(ポケット) ⑬ ジャケット(13) 縫製(袖) ⑭ ジャケット(14) 縫製(衿付け、外回り) ⑮ ジャケット(15) 縫製(ボタンホール、ボタン)、仕上げ ⑯ 着装発表、作品・レポート提出		
予復習等	【予習】 教科書、参考書を読み次回の授業内容について予習する。 【復習】 授業で行った内容について確認を行い、次の授業に備えて課題を進める。		
評価方法	出席状況・受講態度20%、提出作品・その他提出物80%、		
履修条件	製作に必要な材料費(製図用具、生地、副資材等)は受講生の負担とする。		
教科書	配布資料		
参考書	『文化ファッション大系 服飾造形講座①服飾造形の基礎』/出版:文化出版局、『文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④ジャケット・コート』/出版:文化出版局		

科目名	ファッション造形演習 (和服) Fashion Making (Japanese clothes)	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科 (2年後期)	科目区分	演習
担当者	福村 愛美	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本の古くから受継がれた、日本特有の伝統的な和服に触れるために単衣 (浴衣) の製作を行う。細部の裁寸が必要なく、無駄のない布使い、平面構成の巧みさや手縫いの良さを実習を通して学習する。また、作品を着る事によって、着物の楽しさを味わう。		
授業概要	和服は普段着る機会がほとんどなくなってしまったが、浴衣は夏祭りなどで若者が気軽に着ることができる定番アイテムになっている。大半は既製品で1サイズである。それは体型にフィットしていなくても着付けによって着用できるという昔ながらの知恵でもある。しかしせつかなのでより自分自身の体型にあったサイズで製作し、着用してほしい。生地柄から自分に似合うものを探し楽しみ、1針ずつすべて手縫いで作り上げる達成感を味わってほしい。 【SDGs : 5, 12】		
授業計画	大裁女物長着の制作 (すべて手縫い) ① 形および名称 ② 採寸・地直し ③ 見積もり・見ごろ裁断 ④ 見ごろ印つけ ⑤ 背縫い ⑥ 袖の裁断・印つけ ⑦ 袖縫い ⑧ 肩当て ⑨ 衽裁断・印つけ ⑩ 衽つけ ⑪ 共衽つけ ⑫ 衽つけ ⑬ 脇縫い ⑭ 袖つけ ⑮ 裾くけ ⑯ 仕上げ、畳み方		
予復習等	前回の工程までできていない箇所はやっておくこと。 必要な材料は各自準備してくること。		
評価方法	出席状況・受講態度20%、提出作品・その他提出物80%、		
履修条件	ファッション造形演習Ⅰ・Ⅱ単位取得者のみ。製作に必要な材料費(反物、副資材等)は受講生の負担とする。		
教科書	「和服の構成」(東京都私立短期大学協会) 酒井書店・育英堂 浴衣地の反物を各自用意		
参考書			

科目名	パターンメイキング論 Theory of Pattern Making	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科FD専修 (2年前期)	科目区分	講義
担当者	福村 愛美	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	デザインを衣服としての確に表現するためのパターンメイキング能力を習得することを目的とし、以下の4点を到達目標とする。 (1) 人体形態とパターンの関係を理解する。 (2) 代表的なアイテムの製図方法を習得する。 (3) 原型の展開方法を理解し、様々なデザインパターンへと応用する力を身につける。 (4) 素材に適したゆとり量の設定、デザインを理解する。		
授業概要	衣服の代表的なアイテムの製図方法を習得する。さらに、原型または基本となるパターンから様々なデザインパターンへの展開方法を理解し、デザイン、ハンガーイラストを衣服としての確に表現するためのパターンメイキング能力を身につける。また、素材によってシルエットや必要となるゆとり分量が異なることを理解し、より快適で美しい衣服製作をするための知識・技術を習得する。 【SDGs : 12】		
授業計画	① 身頃原型の展開とデザイン ② 身頃原型の展開とデザイン ③ 袖の種類とパターンメイキング ④ 袖の種類とパターンメイキング ⑤ 衿の種類とパターンメイキング ⑥ スカート原型の展開とデザイン ⑦ スカート原型の展開とデザイン ⑧ スカート原型の展開とデザイン ⑨ ワンピースのパターンメイキング ⑩ ワンピースのパターンメイキング ⑪ パンツのパターンメイキング ⑫ ジャケットのパターンメイキング ⑬ ジャケットのパターンメイキング ⑭ スカートのグレーディング ⑮ 身頃のグレーディング ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書及び配布資料を読み次回の授業内容について予習する。 【復習】授業で行った内容について確認を行い、次の授業に備えて課題を進める。		
評価方法	出席状況・受講態度30%、課題提出40%、定期試験30%		
履修条件	なし		
教科書	(一財)日本ファッション教育振興協会 パターンメイキング技術検定試験2級ガイドブック、配布資料		
参考書	(一財)日本ファッション教育振興協会 パターンメイキング技術検定試験2級試験問題 解答・解説集【改訂版】		

科目名	材料管理学 Material Management	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科FD専修（2年前期）	科目区分	講義
担当者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	洗濯などの衣服の適切な取り扱い方法は、ファッション業界において、清潔と耐洗濯性の視点から商品企画、販売、消費者対応などの業務を遂行する上で必要とされている知識である。洗濯や保管などの基礎知識を習得することを目的とする。洗濯の必要性、洗浄理論と洗濯方法、衣服の保管などの衣料管理士として必要となる基礎知識を習得することを目標とする。染色原理の基礎部分についても習得する。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公設試で衣服管理学に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】</p> <p>私達の身の周りの日常生活用品のほとんどは、使用することによる汚れの付着、洗浄、仕上げ、保管のくり返して利用され、汚損、変形、変色、脆化すると破棄される。各種材料が有する当初の良好な性能を長期間維持していくためには、材料の組成、性質を良く知って、適正な管理をしなければならぬ。私達の衣生活、住生活を飾る繊維製品を中心に、その適正な管理について科学的に学び、機能的、合理的な材料の利用方法を修得する。</p> <p>【SDGs：6, 9, 12, 14】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 材料管理学とは／洗濯の絵表示 ② 衣服の汚れ ③ 洗濯用水と洗剤（1） 洗濯用水 ④ 洗濯用水と洗剤（2） 洗剤 ⑤ 洗濯機と洗濯機械力 ⑥ 汚れ除去のメカニズム ⑦ 洗浄力の試験方法 ⑧ 家庭洗濯 ⑨ 商業洗濯（ドライクリーニング・ウェットクリーニング） ⑩ 漂白と増白 ⑪ 糊抜きと仕上げ ⑫ しみ抜き ⑬ 衣類の保管 ⑭ 染色のメカニズム ⑮ 染色物の評価試験方法 ⑯ 期末試験（記述式 持ち込み不可） 		
予復習等	<p>【予習】解説予定の内容について、日常生活での洗濯でどのように行われているかを確認しておく</p> <p>【復習】毎回配付される資料について、講義中解説した重要項目について復習する。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20%、期末試験80%で、総合判定する		
履修条件	なし		
教科書	『衣服管理の科学』／片山倫子 編著／建帛社		
参考書	『衣服管理学』／日本衣料管理協会 『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅穂、古濱裕樹編著／アイケイコーポレーション		

科目名	テキスタイル素材演習 Textile: Material	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科FD専修（2年前期）	科目区分	演習
担当者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	被服材料に関する基礎知識を、実験を通じて身につけることを目的とする。被服材料に関する試験の原理と正しい測定方法を理解し、繊維材料の基本となる諸性質を理解し、実際の現場で実施・応用ができるようにする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公設試で繊維材料に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】</p> <p>生活材料学で学んだ内容を基礎にして、身近なテキスタイル素材(織物)の様々な基本的物理性能を、JIS（日本工業規格）に準じて測定する。さらに、その測定値を様々な角度から比較検討して考察し、測定された性能が衣生活の中でどのように生かされ、利用されているかを考える。繊維の種類やその特性、布の種類やその特性を知り、テキスタイル素材の合理的、機能的利用の指針を得るための実験的演習。</p> <p>【SDGs：9, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 素材測定の手順説明と試料布の準備 ② 繊維の鑑別試験（1） 顕微鏡による鑑別 ③ 繊維の鑑別試験（2） 燃焼による鑑別 ④ 繊維の鑑別試験（3） 溶解による鑑別 ⑤ 繊維の鑑別試験（4） 呈色による鑑別 ⑥ 糸の特性の評価 番手表示と合糸数・撚り方向 ⑦ 布の構成因子の測定 糸密度測定・組織判別 ⑧ 中間レポートの作成 ⑨ 布の物理特性の測定（1） 引張強度の測定 ⑩ 布の物理特性の測定（2） 引裂強度の測定 ⑪ 布の物理特性の測定（3） 破裂強度の測定 ⑫ 布の風合い性能の測定（1） 剛軟度の測定 ⑬ 布の風合い性能の測定（2） 防しわ性・ブリーチ性の測定 ⑭ 布の保健衛生的性能（1） 吸水性の測定 ⑮ 布の保健衛生的性能（2） 通気性の測定 ⑯ 総合レポートの作成 		
予復習等	<p>【予習】実験手順について事前に確認をし、円滑な実験操作を行えるようにしておく</p> <p>【復習】各回の実験結果について実験レポートを作成する。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度を40%、各実験項目についてのレポート内容を60%の割合で総合評価。		
履修条件	生活材料学の内容を十分理解していることが望まれる		
教科書	テキスタイル素材演習の実験手順書を配布し使用する		
参考書	『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅穂、古濱裕樹編著／アイケイコーポレーション		

科目名	テキスタイル染色演習 Textile: Dyeing	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科FD専修（2年後期）	科目区分	演習
担当者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	染色や洗濯に関する基礎知識を、実験を通じて身につけることを目的とする。染色・洗濯に関する試験の原理と正しい測定方法を理解し、繊維材料の基本となる諸性質を理解し、実際の現場で実施・応用ができるようにする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公設試で繊維材料に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】</p> <p>我々の身近な繊維製品は、さまざまな染色加工技術により製造されている。また、日常行っている衣服の管理にも基本となる理論や適切な技術が応用されている。材料管理学ではこれらの基礎となる理論や技術を講義してきたが、本演習では、材料管理学の講義内容に基づいて、アパレル素材の染色・加工特性、堅牢度試験方法や界面活性剤の性質、洗剤の洗浄力などの演習を行う。この演習を通して、アパレル製品に必要とされる性能や被服管理に対する実践性の伴った知識として理解を深める。</p> <p>【SDGs：6, 9, 12, 14】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 概要と実験の手順説明 ② 染色実験（1） 細孔径と染料分子径との関係（1）（直接染料・常温染色） ③ 染色実験（2） 細孔径と染料分子径との関係（2）（分散染料・高温高压染色） ④ 染色実験（3） 結合の種類とその強さ（1）（酸性染料・イオン結合） ⑤ 染色実験（4） 結合の種類とその強さ（2）（反応染料・共有結合） ⑥ 染色実験（5） 助剤の効果とアルカリ緩衝作用 ⑦ 染色堅ろう度試験（1）：耐光・洗濯堅ろう度 ⑧ 染色堅ろう度試験（2）：汗・摩擦堅ろう度 ⑨ 界面活性剤の性質（1）：クラフト点と曇天 ⑩ 界面活性剤の性質（2）：可溶化力と乳化力 ⑪ 石鹼の作成と性質 ⑫ 石鹼と洗剤の洗浄性（1）：アルカリ剤の効果 ⑬ 石鹼と洗剤の洗浄性（2）：水軟化剤の効果 ⑭ 市販洗剤の洗浄性と添加剤の効果・洗濯機械力の効果 ⑮ しみ抜き・漂白 ⑯ 試験総合レポートの作成 		
予復習等	<p>【予習】 実験手順について事前に確認をし、円滑な実験操作を行えるようにしておく</p> <p>【復習】 各実験内容についてレポートを作成する</p>		
評価方法	出席状況・授業態度を40%、各実験項目についてのレポート内容を60%の割合で総合評価。		
履修条件	材料管理学の内容を十分理解していることが望まれる		
教科書	テキスタイル染色演習の実験手順書を配布し使用する		
参考書	『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅穂、古濱裕樹編著／アイケイコーポレーション		

科目名	染色デザイン演習 Dyeing Design	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	柴田 佐和子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	テキスタイルの色や柄はファッションの印象を決定づける重要な要素である。テキスタイルの色や柄を付ける染色の技法には数多くの種類がある。本演習では、様々な染色の技法やプロセスを学ぶことで、テキスタイルデザインの基礎的な技術や知識を習得するとともに、テキスタイルの側面からファッションにアプローチするための、発想力や表現力を身につけることを目的とする。		
授業概要	<p>伝統的な染色技法からデジタル機器を用いた染色技法まで、様々な染色に触れる。それぞれの染色の技法やプロセスを学ぶとともに、染色方法に合わせたテキスタイル図案の制作方法を学ぶ。</p> <p>さらに、自由制作では、課題制作で履修した染色技法を応用し、それらの技法を用いて染色をした布を利用して服飾作品を制作する。服飾作品を想定することで、作品に適した染色技法の選定やテキスタイルデザイン能力を習得する。</p> <p>【SDGs：4, 6, 9, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイドンス：染色技法の種類と概要 ② 課題制作：絞り染め(1) ③ 課題制作：絞り染め(2) ④ 課題制作：型染め(1) ⑤ 課題制作：型染め(2) ⑥ 課題制作：型染め(3) ⑦ 課題制作：型染め(4) ⑧ 課題制作：段染め ⑨ 課題制作：デジタルプリント(1) ⑩ 課題制作：デジタルプリント(2) ⑪ 自由制作：テーマの提示、染色技法の選定 ⑫ 自由制作：図案制作 ⑬ 自由制作：染色 ⑭ 自由制作：服飾作品の制作(1) ⑮ 自由制作：服飾作品の制作(2) ⑯ まとめ：作品発表・総評 		
予復習等	<p>【予習】 配布資料、参考書を読み次回の授業内容について予習する。</p> <p>【復習】 授業で行った内容について確認を行い、次の授業に備えて課題を進める。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20%、提出作品・その他提出物80%、		
履修条件	制作に必要な材料費の一部は受講生の負担とする。		
教科書	配布資料		
参考書	『染織 染を学ぶ』／著：高木光司／出版：京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局		

科目名	ブランドマーチャンダイジング Brand Merchandising	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科FD専修（2年前期）	科目区分	演習
担当者	下川 美都子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ファッションにおける情報収集や分析（マーケティング）から具体的な商品企画（マーチャンダイジング）、さらに、販売促進（プロモーション）など、一貫とした商品化プロセスを、学生が各自の演習をとおして理解し、マップに表現していくことを目的とする。また、商品企画においての重要なコンセプト（概念）を把握し、明確なターゲットによる商品企画提案、アイテム（品目）・カラー・スタイル・コーディネートなどの構成、価格設定、さらに、ショップにおける販売計画までを含めたブランド戦略を、学生が習得する到達目標である。（※学外セミナーの日程により授業計画が移動する場合がある。）		
授業概要	【担当者の実務経験：アパレル企業のブランド・マーチャンダイジングに携わる。マーチャンダイジングの経験あり。】 ファッションマーチャンダイジングは、消費者（需要側）に適正な数量（商品ロット）と価格で、適切な場所と時期において、消費者のニーズに基づいた満足感のある商品を提供する企業活動である。本授業では、学生が各自オリジナルなマイブランドの商品計画を構成し、企画からショップの販売計画まで一貫とした商品開発マップを作成する。①②③④では、ブランドの基本となる概念を設定し、⑥⑦⑧では、トレンド情報分析から次シーズン商品計画を決定、さらに、⑨⑩⑪⑫⑬⑭では、月別にストーリーテーマや細分化構成を計画していく。マーチャンダイジングのプロセスを理解し、学生自らの発想でオリジナルなブランド構成マップを作成する。最終⑮でプレゼンテーションを行う。 【SDGs：5,12】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ファッション（衣服・雑貨など）マーチャンダイジングと情報収集の重要性 ② トrend分析とシーズン予測 ③ ブランドコンセプトとターゲット設定 ④ 学外セミナー ⑤ 価格帯設定 ⑥ シーズンコンセプト立案 ⑦ シーズン別ストーリーテーマ ⑧ シーズンスタイリング&コーディネート企画 ⑨ シーズン別カラー・素材構成計画 ⑩ シーズン別アイテム構成計画 ⑪ セールスプロモーション VMD計画 ⑫ 原価計算 ⑬ 販売計画 ⑭ シーズン別売り場構成 ⑮ プレゼンテーション 		
予復習等	【予習】マイブランド作成において、新聞・雑誌・情報などを調査し資料を用意すること。 【復習】マイブランド作成では、常に情報の変化などを見直し理解を深めて作成すること。		
評価方法	受講態度20%、提出課題(オリジナルブランドマップ作成)50%、独自性と完成度と意欲30%		
履修条件	衣料管理士必修。一年後期「ファッションマーケティング」を履修しているのが望ましい。		
教科書	プロセスのプリント配布、流行情報誌やコレクションなどの雑誌（MAP用資料）※課題提出指定ファイルは自己負担		
参考書	菅原正博『アパレル・マーチャンダイジング』ファッション教育社		

科目名	ファッション販売論 Theory of Fashion Retailing	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科FD専修（2年後期）	科目区分	講義
担当者	下川 美都子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ファッション産業の発展とともに、ファッション販売の業態や職種も大きく進化していった。現在、個性化や多様化するファッションビジネスにおいて、ファッション販売は、高度な知識や技術を必要とされる、評価の高い専門職である。つまり、プロフェッショナルな職種として重要な役割を果たしている。学生がファッション販売の専門的な基礎知識・技術・役割などを修得することを授業目的とし、さらに、販売促進のプロセスや店舗運営に関する計数など、必要なスキルを認識することを到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：アパレル企業でデザイン製作に携わり、小売り店頭では販売指導やVMD計画に従事した経験あり。】 ファッション産業において、販売技術はより高度化を求められている。本授業では、ファッション販売の基礎知識から本格的な販売技術において能力を高め習得していく。主に講義中心であるが、プロフェッショナルな販売職に一部プロモーション立案の演習やロール・プレイングも取り入れ、認識を深めていく。本授業の①②③④では、小売業の組織や経営戦略などの知識を習得する。⑤⑥⑦⑧では、ショップ店舗のVMDや販売の仕組みと販売スタッフの役割について理解を深める。さらに、授業後半の⑩⑪⑫⑬⑭⑮では、店舗運営に関する計数知識、販売の業務などについて、実際のプロモーション立案やロール・プレイングなどを実施しながら習得する。 【SDGs：5,12】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ファッション販売とは ② ファッション小売業の変遷 ③ ファッション小売業の組織と職務 ④ ファッション小売業の経営戦略 ⑤ リテールマーケティングとマーチャンダイジング ⑥ ファッション販売の仕組み ⑦ VMD・VP・PP・IP ゾーニング ⑧ 販売スタッフの役割 ⑨ 課題（1）各自選択した企業の経営研究レポート発表 ⑩ 店舗運営に関する計数 ⑪ 販売業務内容 ⑫ ロール・プレイング（1） ⑬ ロール・プレイング（2） ⑭ プロモーション立案 ⑮ プレゼンテーションと小売業の課題と展望 		
予復習等	【予習】ファッションビジネス系の新聞・雑誌などの情報を調査しておく。 【復習】プロモーション立案やロール・プレイングなどは常に練習しておくこと。		
評価方法	授業態度20%、経営研究レポートとプレゼンテーション60%、ロール・プレイング能力20%		
履修条件	「ファッションマーケティング」「アパレルマーチャンダイジング」を履修していることが望ましい。		
教科書	日本衣料管理協会『ファッション販売論』		
参考書	日本ファッション教育振興協会『ファッション販売Ⅱ』、本山光子『FASHION STYLE PLANNING』ファッション教育社		

科目名	消費科学 Consumption Science	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科FD専修（2年後期）	科目区分	講義
担当者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>繊維製品の生産から消費に至る分野で活躍するために、繊維製品の品質管理、消費者行動、生産／流通に関する知識を習得することを目的とする。</p> <p>繊維製品について、（１）消費者が望む品質（２）消費者行動（３）生産・流通・消費の基礎知識について習得する。また、消費者問題の重要性についても習得する。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公設試で消費者問題に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】</p> <p>消費科学は、日常生活に関するモノとサービスの生産、流通、消費について、その実態を明らかにするとともに、これらを生活の豊かさに結びつけることを考える科学である。身の回りにあふれる様々な日常生活製品の品質やその管理に関することや、消費者行動について詳しく知ることは、モノを生産する立場からも、消費する立場からも大変重要なことである。この講義では日常生活の中で特に繊維製品の消費科学について、消費者保護の観点から解説する。</p> <p>【SDGs：1, 8, 9, 12, 14】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 消費科学の定義 ② 繊維製品の品質、品質設計と品質管理 ③ 品質の評価と品質保証 ④ 品質表示と安全性 ⑤ 消費者苦情とその原因 ⑥ 消費者苦情の具体的事例 ⑦ 消費者苦情の活用 ⑧ 消費者行動の特徴と要因 ⑨ 消費者調査の種類 ⑩ 消費者調査の分析と具体的事例 ⑪ 繊維製品の生産 ⑫ 繊維製品の流通 ⑬ 繊維製品の消費 ⑭ 地球環境と繊維製品 ⑮ 消費者問題の最新動向(サステナブルと消費科学) ⑯ 期末試験（記述式 持ち込み不可） 		
予復習等	<p>【予習】解説予定の内容について、日常生活との関連について確認しておく</p> <p>【復習】毎回配付される資料について、講義中解説した重要項目について復習する。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20％、期末試験80％で、総合判定する		
履修条件	なし		
教科書	『衣生活のための消費科学』／日本衣料管理協会		
参考書	『消費生活論』／日本衣料管理協会、『ファッション商品論』／日本衣料管理協会		

科目名	住生活論 Theory of Living Environment	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科ID専修（2年前期）	科目区分	講義
担当者	臼井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本講義では、人間にとって最も根源的で身近である住空間を主題とする。建築設計において基本となる、人のふるまいと空間の関係性を学ぶことにより、リアリティのある住空間のイメージを膨らませ、実際の設計へと反映する能力を養うことを目的とする。</p> <p>また、住空間には人や環境の違いがもたらす住まい方の多様性が現れる。国内外の事例を通して地域固有の住まいの歴史や成り立ちを知り、優れた事例に対する自らの考えを発表することにより、受講者それぞれが住空間に対する独自の価値観を見出すことを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】</p> <p>生活の拠点となる住まいは、様々な気候、文化、あるいは社会的背景の上に成立する。建築家はそれを深く理解した上で、豊かな空間を作り上げる。</p> <p>本講義では、住生活の背景にある事柄と住まいとの関わりについて学ぶ。ひとりの建築家を取り上げ、各回のテーマに即して、住生活をどのように捉えて建築を設計してきたのかを考察し発表する。それらを通して、住まいに対する確かな思想を持った豊かな住空間を実現するための実践的な考え方を身につける。</p> <p>【SDGs：11】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 多様性 ② 生活とデザイン ③ 住まいの歴史（日本） ④ 住まいの歴史（西洋） ⑤ 建築家の実践（土地の秩序） ⑥ 建築家の実践（プランニング） ⑦ 建築家の実践（断面の作り方） ⑧ 建築家の実践（開口部のあり方） ⑨ 建築家の実践（部屋のあり方） ⑩ 住まいの変遷 ⑪ 住まいとまち ⑫ 住まいとライフスタイル ⑬ 建築家の実践（部位の持つ役割） ⑭ 建築家の実践（ディテール） ⑮ 建築家の実践（家具の考え方） ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】毎回のテーマについて、教科書の該当する章を読み、授業に臨むこと。</p> <p>【復習】配布資料を読み、疑問点を整理すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度15％、発表15％、定期試験70％		
履修条件	学修規程による。		
教科書	『宮脇檀の住宅設計テキスト』／著：宮脇檀建築研究室／出版：丸善出版		
参考書	なし。		

科目名	建築法規 Building Law	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科ID専修（2年前期）	科目区分	講義
担当者	臼井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>学生が建築基準法及び関連する法令について知り、また理解して、建築物をデザイン・設計することができるようになることを目的とする。</p> <p>建築基準法で定められている基準、規則等について学ぶことによって、建築基準法の果たす役割を理解し、安全で住みよいまちづくりのために、建築物がどうあるべきかを考えながら、より実践的なデザイン・設計ができるようになることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】</p> <p>建築基準法は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的としている。本講義では、建築物をデザイン・設計するうえで必要となる建築基準法及び建築基準関係法令について学ぶ。</p> <p>授業計画①②では、法令の体系や条文の読み方のルールについて講義する。③～⑭にて、建築基準法等における建築物の基準、総則等について、理解・習得しやすいよう、図や建築物の実例写真を使用しながら視覚的に解説し、⑮で、より理解を深めるために小テスト形式の総復習を行う。なお、③～⑭の順序については変更する場合がある。</p> <p>【SDGs：11】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 法令の体系、建築基準法の歴史 ② 法令集の読み方、建築基準法の改正 ③ 総則（1）用語の定義 ④ 総則（2）面積・高さの算定、確認申請などの手続き ⑤ 単体規定（1）構造と規模、防火区画、特殊建築物 ⑥ 単体規定（2）居室の採光・換気、階段 ⑦ 単体規定（3）廊下、避難階段、出入口口 ⑧ 単体規定（4）排煙設備、非常用照明装置、内装制限 ⑨ 単体規定（5）構造強度 ⑩ 集団規定（1）道路、用途制限 ⑪ 集団規定（2）建ぺい率、容積率 ⑫ 集団規定（3）高さ制限 ⑬ 集団規定（4）防火地域、雑則 ⑭ その他の建築法規 建築士法、バリアフリー法 ⑮ 演習問題 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】教科書の該当ページを読んでおくこと。</p> <p>【復習】授業中に習得・理解できなかったところを復習すること。</p>		
評価方法	出席状況及び授業態度：30%、定期試験：70%		
履修条件	なし		
教科書	『図説 やさしい建築法規』／今村仁美ほか／学芸出版社		
参考書	『基本建築関係法令集 令和4年版』／発行（株）井上書院		

科目名	施工と生産 Construction and Product Process	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科ID専修（2年前期）	科目区分	講義
担当者	今菌 司	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>学生が建築物の生産システムのしくみや建築物の着工から完成に至るまでの具体的な施工技術を習得することを目的とする。技術面のみならず建築施工の目的、安全性および関係法令の建築基準法や労働安全衛生法を理解し、習得した生産システムの知識を設計やデザインに活用できるようになることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公共建築物の設計、施工監理に現役で従事している講師が担当】</p> <p>座学においては、実際の施工技術詳細のほか、建築生産概論として建設業をとりまく現状の問題点や将来性、契約の流れ、工程計画の作成手法など、施工前に留意すべき内容について解説する。なお講義では教科書のほか、パワーポイントや配布資料を使用する。</p> <p>現場研修は、躯体や仕上げの工事現場、完成後の建築物にて行う。実際の施工を自身の眼で見て学ぶ研修である。その際、工事の設計、監理、施工の担当者から直接、事業説明や採用技術についての解説を聞くことにより、座学で学んだ知識を深め、その定着を図る。なお、現場研修の回数や時期は、研修現場の工事進捗状況により変更される場合がある。</p> <p>【SDGs：8,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 建築生産概論、施工者の決定と請負契約 ③ 施工計画と施工管理 ④ 仮設と機械・地下工事 ⑤ 躯体工事（1）（鉄筋工事・型枠工事） ⑥ 躯体工事（2）（コンクリート工事） ⑦ 躯体工事（3）（鉄骨工事） ⑧ 仕上工事（1）（CB工事・ALC工事・石工事） ⑨ 仕上工事（2）（防水工事・タイル工事・左官工事・屋根工事） ⑩ 仕上工事（3）（木工事・カーテンウォール工事・建具工事） ⑪ 仕上工事（4）（ガラス工事・塗装工事・内装工事） ⑫ 現場研修（躯体又は仕上工事） ⑬ 同上 ⑭ 改修工事・解体工事 ⑮ 安全と環境問題・積算と見積り ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】各回のテーマについて教科書を読んでおくこと。</p> <p>【復習】配布資料や教科書について疑問に感じたことを調べ、理解を深めること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度30%、レポート・小テスト10%、定期試験60%		
履修条件	学修規程による。		
教科書	『建築生産』／編：井畑耕三／出版：オーム社		
参考書	なし		

科目名	建築・インテリア設計演習Ⅱ	単位数	2
	Architecture/Interior Planning Ⅱ	必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科ID専修（2年前期）	科目区分	演習
担当者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本演習では、建築・インテリア設計演習Ⅰで学んだ設計手法を基に、「みんな」のための建物の計画を行います。新たな建物用途と敷地を設定し、ここでも敷地の見方、情報の集め方、敷地模型の作り方、設計の方法を、ステップを踏んで進めていきます。プレゼンテーションふくめ、卒業研究などに応用できる力をつけていきます。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：建築事務所で住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】</p> <p>演習課題として、岐阜市の中心市街地に「みんなの施設」を計画します。建築・インテリア設計演習Ⅰより建築面積が大きい不特定多数の利用する建物に取り組みます。中心市街地ならではの車と歩行者の交通、周辺建物、自然環境を読み取り、求められた所要室の関係性を繋ぎながら建物を敷地に計画していきます。</p> <p>【SDGs：3・4・5・11・12・13・15】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス 課題「みんなの施設」 課題説明 ② 敷地見学 敷地模型づくり ③ 敷地分析 ④ ポリウムスタディ ⑤ ポリウムスタディ ⑥ 機能を考える ⑦ 機能を考える ⑧ 空間の囲み方、支え方を考える ⑨ 空間の囲み方、支え方を考える ⑩ 開口部のスタディ□ ⑪ 開口部のスタディ□ ⑫ 機能を考える ⑬ 機能を考える ⑭ プレゼンテーション ⑮ 講評会 		
予復習等	<p>【予習】敷地の調査、模型制作、事例調査等、設計を進めるために必要な情報収集</p> <p>【復習】エスキスチェックにて指摘された箇所の検討。次週までの宿題を進めること</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20%、課題80%		
履修条件	建築・インテリア設計演習Ⅰを受講していることが望ましい。課題敷地までの交通費は自己負担。		
教科書	コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編）、初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ（彰国社）		
参考書			

科目名	建築・インテリア設計演習Ⅲ	単位数	2
	Architecture/Interior Planning Ⅲ	必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科ID専修（2年後期）	科目区分	演習
担当者	臼井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱで学んだ設計の手順および表現を深めながら、新しい提案とそれらの表現方法を獲得する事を目的とする。</p> <p>到達目標は、設計により社会と関わるために最低限必要となる、次の3つの能力を養うことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会に必要とされるテーマを自ら設定すること。 ・3次元CADを扱えること。 ・図面および立体表現によって、自らの提案を効果的に伝えること。 		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】</p> <p>「地域観光のための施設」を扱う。地域の課題を見つけ出し、テーマを設定する。そして、そのテーマを解決する助けになるような根拠を見つけ、設計するための下地を整える。その際に、3次元CADについても扱うことで、考えたアイデアを形として表現するための素養を養う。その後、さまざまなアイデアを企画書としてまとめる。その企画書の内容を具現化するための“美しい”図面表現と、3次元CADによる“魅力的な”立体表現に挑戦する。</p> <p>【SDGs：11】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 「地域観光のための施設」ガイダンス、敷地調査 ② テーマの設定 ③ 3次元CAD(基本操作) ④ 3次元CAD(モデリング) ⑤ 3次元CAD(マテリアル) ⑥ 3次元CAD(光の設定) ⑦ 3次元CAD(パース作成の技術) ⑧ 3次元CAD(画像の合成) ⑨ 企画書の作成 ⑩ 設計(豊かな空間を創造する) ⑪ 設計(環境について考える) ⑫ 図面表現 ⑬ 立体表現 ⑭ プレゼンテーション ⑮ 講評会 		
予復習等	<p>【予習】毎回のテーマについて、エスキスを受ける用意をして授業に臨むこと。</p> <p>【復習】エスキスでの内容を整理すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度15%、課題85%		
履修条件	学修規程による。		
教科書	『コンパクト建築設計資料集成』/日本建築学会学会 / 出版：丸善		
参考書	『AutoCADで3D攻略読本』/鳥谷部 真 / 出版：X-Knowledge		

科目名	建築プレゼンテーション演習 Architecture Presentation	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建築プレゼンテーション演習では、CADで製図したデータや、撮影した画像等を用いて、建築やインテリア設計、ポートフォリオのプレゼンテーションに必要な方法や知識を、主にAdobeのフォトショップおよび、イラストレーターを使用しながら実践的に習得します。設計演習や、卒業研究はもちろん、作品をより人にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションを目指します。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：建築事務所住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】</p> <p>1) 就職活動や進学等で活用できるポートフォリオの作成を行います。</p> <p>2) フォトショップおよび、イラストレーターの建築プレゼンテーションにおける基礎的なテクニックを習得します。</p> <p>3) 優れた建築プレゼンテーションを数多く見ることで他者に伝わりやすいプレゼンテーションを知識として蓄えます。</p> <p>4) 応用編として、建築・インテリア設計演習Ⅱと連動し、設計中の建物のプレゼンテーションを実践的にを行います。</p> <p>【SDGs：4・5・11】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス（建築プレゼンテーション演習の方法） ② 図面に使えるテクニック ③ 図面に使えるテクニック ④ 建築写真に使えるテクニック ⑤ 建築パースに使えるテクニック ⑥ プレゼンテーションに使えるテクニック ⑦ コンペの作品からプレゼンテーションを学ぶ ⑧ コンペの作品からプレゼンテーションを学ぶ ⑨ カットリングプリンターを使おう 基礎編 ⑩ カットリングプリンターを使おう 応用編 ⑪ ポートフォリオの作成1 ⑫ ポートフォリオの作成2 ⑬ ポートフォリオの講評会 ⑭ 課題のプレゼンテーション ⑮ 講評会 		
予復習等	<p>【予習】 演習で用いる画像や図面等の素材の準備</p> <p>【復習】 演習時間内で終わらなかった課題を進めること</p>		
評価方法	出席状況・授業態度30%、課題70%		
履修条件	建築・インテリア設計演習Ⅰを受講していることが望ましい。		
教科書	建築とインテリアのためのPhotoshop+Illustratorテクニック（エクスナレッジムック）		
参考書			

科目名	測量演習 Surveying Practice	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科ID専修（2年後期）	科目区分	演習
担当者	山田 英樹	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>学生が現地測量から図面作成までの過程を繰り返し作業する中で、測量によってできることを実感し、測量の意義や可能性、制度などについて理解することを目的とする。</p> <p>また、測量機器の操作方法や、測量で取得したデータを整理するための方法、図面を作成して面積を算出する方法などを学び、現地作業から図面作成までを1人で行えるようになる事で、「ものづくり」に関わる専門的な能力の一端を習得することを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：建設現場等にて測量作業の業務に従事した経験あり。】</p> <p>測量とは、地球表面上の点の関係位置を決めるための技術・作業の総称であり、地図の作成、土地の位置・状態調査などを行うものである。</p> <p>本演習においては、測量の目的や種類に応じ、大学構内やその周辺、公園、堤防など屋外にて測量機器を用いて計測し、そこから得た結果を基にして図面等を作成する。これらの作業を測量の種類ごとに繰り返し実践することで、基本的な測量技術を習得する。</p> <p>なお、演習順序・内容については、天候等の理由により変更する場合がある。</p> <p>【SDGs：4, 9, 11】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 測量の概要 ② 距離測量（1） ③ 距離測量（2） ④ トラバース測量（1） ⑤ トラバース測量（2） ⑥ トラバース測量（3） ⑦ 水準測量（1） ⑧ 水準測量（2） ⑨ 水準測量（3） ⑩ 横断測量（1） ⑪ 横断測量（2） ⑫ トラバース測量（4） ⑬ 平板測量 ⑭ 実技試験 ⑮ 試験 ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】 各回の内容について教科書を読んでおくこと。</p> <p>【復習】 配布資料や教科書で測量機器の操作手順等を確認し、理解を深めること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度40%、演習成果（図面等）・実技試験30%、試験・レポート30%		
履修条件	学修規程による。		
教科書	『新版 測量学（上）』／著：丸安隆和／出版：コロナ社		
参考書	適宜、資料を配布		

科目名	西洋建築史	単位数	2
	History of Western Architecture	必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科ID専修（2年前期）	科目区分	講義
担当者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>建築の成立と発展過程の歴史を社会や生活と求められる時代の空間、自然環境、外部との関係を通して理解する。本講義では、西洋における各時代の建築意匠に注目し、建築の歴史の変遷の流れを把握することを目的とする。古代から近世への足取りについて、社会的背景をふまえつつ、建築の意匠と技術を、実例を通して学ぶ。また、産業革命以降の新芸術運動とモダニズム建築の成立およびその思想について学ぶ。西洋各地における、各時代の建築文化の特色と独自性を理解する。</p>		
授業概要	<p>西洋建築史の起源は、古代ギリシア建築に求められることが多い。西洋建築で手本とされた古代ローマ建築の多くが古代ギリシア建築から受け継いでいることがその理由に挙げられる。そのため、本講義では古代ギリシア建築からその流れを追う。</p> <p>古代地中海世界の末期には、キリスト教が公認され、その後の中世を通じてキリスト教建築が建築の主役となる。</p> <p>古代ローマを手本とし、自由な人間性の再生が目指されたルネサンスにより近世が幕を開け、古代建築言語を用いた世俗建築も華々しく建設された。</p> <p>産業革命により、建築に新しい材料・技術が使用され、造形も歴史様式から脱却した新しい造形が模索され、モダニズム建築が成立・流布した。</p> <p>【SDGs：11】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 西洋建築の概要 ② 古代（ギリシア建築） ③ 古代（ローマ建築） ④ 古代ローマ末期（初期キリスト教建築） ⑤ 中世（ビザンティン建築） ⑥ 中世（プレ・ロマネスク建築） ⑦ 中世（ロマネスク建築） ⑧ 中世（ゴシック建築） ⑨ 近世（ルネサンス建築） ⑩ 近世（バロック建築、古典主義建築、ロココ） ⑪ 近世（新古典主義建築） ⑫ 近世（歴史主義・折衷主義の建築） ⑬ 近代（新芸術運動） ⑭ 近代（モダニズム建築） ⑮ 現代建築 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】教科書を用いて、時代背景の理解を深める予習を行うこと。</p> <p>【復習】建築史は時代の変遷との関係が深いため前時代の復習が重要である。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度・提出物・小テスト30％、定期試験70％		
履修条件	なし		
教科書	彰国社「コンパクト版 建築史 日本・西洋」 「建築史」編集委員会著		
参考書	適宜、資料を配布		

科目名	日本建築史	単位数	2
	History of Japanese Architecture	必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科ID専修（2年前期）	科目区分	講義
担当者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>建築の成立と発展過程の歴史を社会や生活と求められる時代の空間、自然環境、外部との関係を通して理解する。</p> <p>本講義では、日本建築史を中心に、各時代の建築意匠に注目し、建築の歴史の変遷の流れを把握することを目的とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：建築事務所にて住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】</p> <p>縄文・弥生時代の建築から、時代を追って城郭建築までの日本建築を教科書とスライド用いて解説しながら学んでいく。座学で学んだことを実物とおして確認するため、近隣の日本建築の見学へ数回回いて空間体験を行う。見学前は担当者を決めて、見学する建築の下調べをおこない、発表することで情報共有を行う。建築の鑑賞の仕方を身につけることも目的としている。</p> <p>【SDGs：4・5・11・12・13・15】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、日本建築の基本構成とその名称 ② 古代 ③ 飛鳥～奈良時代の建築 ④ 古代の都城建築と宮殿建築 ⑤ 神社の成立とその形式 ⑥ 見学 ⑦ 密教建築と浄土教建築 ⑧ 大仏様と禅宗様 ⑨ 見学 ⑩ 寝殿造と書院造 ⑪ 茶室と数寄屋建築 ⑫ 城郭建築 ⑬ 見学 ⑭ 民家 ⑮ レポート講評および復習 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】見学予定の建物を下調べしておくこと。</p> <p>【復習】授業で理解できなかった箇所を文献等で調べておくこと。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度30％、レポート・定期試験70％		
履修条件	見学の交通費、入場料は各自負担		
教科書	「コンパクト版 建築史 日本・西洋」（彰国社）		
参考書	適宜、資料を配布する。		

科目名	構造力学演習 Experiments in Structural Mechanics	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科ID専修（2年前期）	科目区分	演習
担当者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、構造力学で学んだ知識に関連した各種の構造実験を行い、構造力学等で学習した建築構造に関する基礎的な理論と実現象との整合を確かめることにより、その理解を深めることを目的とする。実験で得られた値と理論値には、少なからず差が生じるが、合う合わないが重要ではなく、なぜ違いが生じたのかを考える（考察する）ことが重要である。世の中にある構造物において、どのような力が働きつり合いを保っているかの判断ができるようになることを目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：総合建設業において建築物の構造設計・監理業務に従事した】</p> <p>構造力学の講義では、建築構造物の安全性を確保するための基礎知識を概念のおよび数値的に習得するが、本講義では、構造実験によって得られた結果と既に修得した計算方法から得られた計算値を比較検証し、体験的に実感することによって、その理解を更に深めるものである。実務経験から得た留意すべき点を講義の中で適宜解説する。</p> <p>【SDGs：9, 11, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 力の体感（力の合成・分解の理解） ② 折板構造（せいの大きさ（断面性能）の理解） ③ 力の釣合い（平行力の釣合いの理解） ④ 力と変形（フックの法則の理解） ⑤ 部材にかかる力（応力（$N \cdot Q \cdot M$）の理解） ⑥ 座屈（座屈現象・座屈荷重の理解） ⑦ 単純梁（単純梁のしくみの理解） ⑧ 耐力壁付きラーメン構造（面材の効果の理解） ⑨ ケーブル構造（張力による示力図の理解） ⑩ アーチ構造（力の伝達の理解） ⑪ トラス構造（圧縮材・引張材の理解） ⑫ 橋梁耐力・デザインコンテスト（課題提示） ⑬ 橋梁耐力・デザインコンテスト（試作・設計） ⑭ 橋梁耐力・デザインコンテスト（本制作） ⑮ 橋梁耐力・デザインコンテスト（載荷実験） ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】教科書の実験の手順をあらかじめ見ておくこと。</p> <p>【復習】考察の項目をよく読み実験レポートを提出すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度40%、レポート等提出物60%		
履修条件	なし		
教科書	丸善出版 日本建築学会編 「はじめてまなぶ ちからとかたち」		
参考書	なし		

科目名	構造計画 Structural Design	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科ID専修（2年後期）	科目区分	講義
担当者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、建築物の構造計画および構造設計の基本的な知識・考え方を習得することを目的とする。特にその基本となるのは、鉄筋コンクリート造においては梁の主筋の求め方であり、これを習得することによってスラブや階段など、どの鉄筋（主筋）も求めることが可能となる。また、鉄骨造においては梁の断面の求め方が基本となる。両者とも教科書を見なくても計算できるように、実践的な力を身に付けることを目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：総合建設業において建築物の構造設計・監理業務に従事した】</p> <p>安全な建築物を設計する上では、構造種別に対応した部材・スパン等の常識的な寸法の知識に加え、その設計法を理解することが重要である。本講義では、構造設計の流れを把握し、構造力学で学習した知識を更に発展させる。構造部材の設計法の基礎を習得し、建築構造に関する計画・設計の本質を理解する。具体的に構造設計を試みることにより、構造材料の特性やその役割について更に理解を深める。実務経験から得た留意すべき点を講義の中で適宜解説する。</p> <p>【SDGs：9, 11, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 構造計画概要 ② 基礎となる物理学 ③ 構造設計の流れ（1次設計） ④ 構造設計の流れ（2次設計） ⑤ 荷重1（固定荷重・積載荷重） ⑥ 荷重2（積雪荷重・風圧力） ⑦ 荷重3（地震力） ⑧ 鉄筋コンクリート構造（梁1） ⑨ 鉄筋コンクリート構造（梁2） ⑩ 鉄筋コンクリート構造（せん断・床） ⑪ 鉄骨構造（梁） ⑫ 鉄骨構造（柱1） ⑬ 鉄骨構造（柱2） ⑭ 2次設計（層間変形角・偏心率・剛性率） ⑮ 2次設計（保有水平耐力） ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】教科書の計算の手順をあらかじめ見ておくこと。</p> <p>【復習】講義で解いた例題を自身で解けるように繰り返し練習すること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%		
履修条件	なし		
教科書	学芸出版社 浅野清昭著 「改訂版 図説 やさしい構造設計」		
参考書	なし		

科目名	インテリアデザイン演習 Interior Design	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科ID専修・VD専修（2年前期）	科目区分	演習
担当者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>建物や空間を表現する手法には、一般に平面図、立面図等の二次元の図面が用いられる。設計者と施工者の間では、図面が設計の意図を正確に伝える重要な媒体となる。一方、クライアントや事業主などの建築のプロではない人にも、そのイメージをわかりやすく伝える手段として、パースや模型といった三次元の表現も活用される。本演習では、パースペクティブの作図および模型制作を通して、建築物の内観および外観の二次元および三次元の表現方法を修得する。一連の演習によってインテリアデザインに対する見識を深め、計画力を磨く。</p>		
授業概要	<p>図面表現の演習と店舗のインテリアデザインの計画・設計を行う。 建築・インテリアの図面表現として一点透視図、二点透視図、アイソメトリック図、アクソメトリック図および展開図の書き方を演習する。一点・二点透視図およびアイソメ・アクソメにより、図法に基づいた三次元表現を習得する。展開図により、インテリアの図面表現を習得する。 店舗のインテリアデザインでは、極小店舗「ゆめのお店」の計画を行う。インテリアディスプレイの提案を行い、模型および図面表現を用いてプレゼンテーションを行う。小さな空間提案を行うことにより、身体スケール感覚を養う。 【SDGs：11, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 建築・インテリアの表現、アイソメトリック図とアクソメトリック図 ② 一点透視図（1）練習、 店舗インテリア（1）コンセプトとブロックプラン ③ 一点透視図（2）線画、 店舗インテリア（2）エスキスチェック ④ 二点透視図（1）練習、 店舗インテリア（3）プランニング ⑤ 二点透視図（2）線画、 店舗インテリア（4）エスキスチェック ⑥ 一点透視図（3）トレースと着色 ⑦ 二点透視図（3）トレースと着色 ⑧ 透視図の講評会 ⑨ 店舗インテリア（5）製図（平面図・展開図・透視図）、模型制作 ⑩ 店舗インテリア（6）平面図・展開図の下書きチェック、模型制作 ⑪ 店舗インテリア（7）透視図の下書きチェック、模型制作 ⑫ 店舗インテリア（8）プレゼン図面のレイアウトチェック、模型制作 ⑬ 店舗インテリア（9）模型チェック、プレゼン図面の清書 ⑭ 店舗インテリア（10）プレゼン図面のチェック、模型の修正 ⑮ 講評会 		
予復習等	<p>【予習】 インテリア計画に必要な資料集めを行う。 【復習】 提出締切までに完成するよう、授業外での仕上げ作業を計画的に行う。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20％、提出課題80％		
履修条件	制作に必要な材料費等は各自で負担		
教科書	適宜、資料を配布		
参考書	秀和システム「スケッチパース ツボとコツ」 宮後 浩著		

科目名	映像表現（アニメーション） Theory of Animated Cartoon	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科VD専修（2年後期）	科目区分	講義
担当者	宮川 友子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>アニメーション表現は今日の広告媒体やデジタルコンテンツにおいて、ユーザの興味を惹き、情報伝達に優れた表現手段として知られる。本授業では連続した平面表現を通じたアニメーション表現の習得と、カメラワークや視覚効果の理解を目的とする。参考作品の鑑賞や講義を通してアニメーション表現の歴史の変遷を理解し、目的に応じた表現に活用する能力を身につける。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり】</p> <p>授業では、まず映像に用いられる視覚効果やアニメーションの制作方法などについて講義を行う。 そして「人物の歩行」など、基本的な動作を絵をつなぎ合わせてアニメーションとして表現するトレーニングを行う。その後、エスキスや絵コンテ制作を経て、テーマに応じた短編アニメーション作品を制作する。授業内では参考作品の鑑賞をし、用いられている工夫や視覚効果などをレポートすることを通して観察眼を養う。 【SDGs：8, 9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション、ソーマトロープの制作 ② アニメーション歴史、その特性と役割 ③ 平面的な動きの表現、立体的な動きの表現 ④ カメラワーク、視覚効果 ⑤ 背景等を含めた総合的な動き ⑥ 短編ストップモーションアニメ制作（1） ⑦ 短編ストップモーションアニメ制作（2） ⑧ 短編ストップモーションアニメ制作（3） ⑨ 短編ストップモーションアニメ制作 講評会 ⑩ 近年のアニメーションの動向と制作手法 ⑪ 動画の編集方法：Adobe After Effects ⑫ 短編映像の制作：企画・絵コンテ制作 ⑬ 短編映像の制作：制作（1） ⑭ 短編映像の制作：制作（2） ⑮ 短編映像の制作：制作（3） ⑯ 総評 		
予復習等	<p>【予習】 授業内で提示する参考書の精読、参考作品の鑑賞など 【復習】 授業配布資料などの復習</p>		
評価方法	作品提出による評価：50％、出席・レポート・プレゼンテーション：50％		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	授業内で適時紹介する。		

科目名	映像表現 (実写) Theory of Video Image	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科VD専修 (2年後期)	科目区分	講義
担当者	山田 聡	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>学生が映像の仕組みを学び、撮影方法や編集方法などの実写映像に関する基礎的な知識と技術を習得することを目的とする。計画 (絵コンテ)、撮影 (カメラ・三脚)、編集 (アプリケーション)、公開といった一連の制作プロセスを踏まえて、映像メディアを用いた表現の特性や可能性を知り、作品制作で活用できる表現力を身につける。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：フリーランスとして映像制作業務の経験あり。】 近年、スマートフォンで簡単に映像が見られるようになったり、撮影や編集、ライブ配信までできるようになるなど、映像はより身近になってきている。 この科目では、映像の構造を理論及び制作を通して理解し、映像の背後にある技術を知り、カメラやレンズなどの道具が変わっても使える共通の技術を身につける。 また、PCの映像編集アプリケーションを使用した編集の基礎技術も習得する。映像作品の計画、撮影、編集、公開といった一連のプロセスを課題を通して体験する。 【SDGs：4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① はじめに (授業の内容の把握、映像はなぜ動いて見えるのか、どういう技術なのか) ② 映像の基礎 (カメラの仕組み、映像技術の仕組み) ③ 撮影の基礎 (構図のとり方、映像制作の流れ、絵コンテ、練習課題) ④ 撮影の基礎 (練習課題、動画ファイルの取り込み) ⑤ 編集の基礎 (アプリケーション操作説明、カット編集、書き出し) ⑥ 編集の基礎 (クレショフ効果に基づいた編集) ⑦ 練習課題 (制作) ⑧ 編集の基礎 (動画ファイルの仕組み、エフェクトの使い方) ⑨ 編集の基礎 (エフェクトの使い方、効果音・BGM) ⑩ コマ撮りの基礎 (様々な映像技法、技術紹介) ⑪ コマ撮りの基礎 (練習課題) ⑫ 課題制作 (アイデア出し、絵コンテ制作) ⑬ 課題制作 (撮影) ⑭ 課題制作 (編集) ⑮ 課題制作 (編集、書き出し、アップロード) ⑯ 課題講評 (プレゼンテーション、まとめ) 		
予復習等	<p>【予習】身近にある映像作品を、制作者としての意識を持って鑑賞しておくこと。 【復習】各回の内容を復習し理解し、課題がある場合は期限までに提出すること。</p>		
評価方法	出席率・授業態度 (40%)、課題 (60%)		
履修条件	なし。		
教科書	なし。スライドを共有する。		
参考書	授業内で紹介する。		

科目名	パッケージデザイン Package Design	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科VD専修 (2年前期)	科目区分	演習
担当者	折戸 加奈子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>パッケージは商品の品質を保つための保護や実用面はもとより、店頭で陳列された際の商品の見え方や、情緒性、機能性にも働きかける事を理解し、パッケージ制作を通じてブランディング力を身につけます。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：】デザイン事務所経営でコンセプトデザイン業務に従事。また、県、市等での審査員、岐阜県広報誌アドバイザーや有識者としての審査業務多数経験。 【授業概要】パッケージは内容物を保護するための包装に留まらず、店頭での販売促進活動のツールとしての役割があります。売れるデザイン、買いたくなるデザイン、制約の中で収まるデザイン、社会に貢献するデザインなどパッケージデザインには他の媒体デザインとは大きく異なる要素が含まれています。パッケージデザインの本質を、演習や学区外研修を通じて学びます。 【SDGs：1から17すべて該当】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ①授業概要ガイダンス・自己紹介 ②パッケージの歴史 ② パッケージの基本を知る (プレゼンテーション1) ③ パッケージの役割・理論を知る ④ ①地域お土産パッケージの現状と考察②学外調査に向けてのガイダンスとグループセッション ⑤ パッケージデザイン学外調査 (調査用紙に基づき) ⑥ ①パッケージ市場調査発表 ②デザインとブランディング-1 ⑦ デザインとブランディング-2 (自分ブランド、ブランドロゴを作る2) ⑧ 演習1 ブランドロゴ制作 (制作・個別チェック) Illustrator ⑨ 演習2 パッケージ制作の概要・制作 (制作・個別チェック) Illustrator ⑩ 演習3 パッケージ制作 (制作・個別チェック) Illustrator ⑪ 演習4 パッケージ制作 (制作・個別チェック) Illustrator ⑫ 演習5 パッケージ制作 (制作・個別チェック) Illustrator ⑬ 演習6 パッケージ制作 (制作・個別チェック) Illustrator ⑭ 演習7 パッケージ制作 (制作・個別チェック) Illustrator ⑮ 学外成果発表 搬入 ⑯ 学外プレゼンテーション2とアドバイス 講評まとめ 搬出 (※最終日曜日変更の可能性あり) 		
予復習等	市場におけるパッケージの既存製品観察や図書館での資料収集を日頃から行うこと。		
評価方法	出席状況60%・提出物30%・プレゼンテーション10%		
履修条件	Adobe Illustrator及びPhotoshopが完全に使えること。課題制作に必要な材料及び用具の購入が必須。		
教科書	使用しない		
参考書	『ペーパーパッケージデザインの教科書』日経BP社、『売れるパッケージデザイン』日経BP社、ほか資料として所用		

科目名	グラフィックデザインⅢ Graphic Design Ⅲ	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科VD専修（2年前期）	科目区分	演習
担当者	宮川 友子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、実社会におけるデザイン制作を想定した複数の課題を設定し、課題制作への取り組みを通じてグラフィックデザイン領域の高度で実践的な専門能力を習得することを目的とする。コンセプト立案やアイデアスケッチ、プロトタイピング、フィニッシュワークなどデザインに関する基本的能力の向上に加えて、それらの工程の把握と自己管理、デザインワークにおける調査・発想・表現・訴求の一連の手順を体験することで、デザインの社会における役割への理解を深め、デザインに関する総合的な能力の向上を目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり】この授業では、実社会におけるデザイン制作を想定した課題テーマとして、ポスターデザインとインフォグラフィックの2テーマを設定し、実務経験にもとづいた実践的な指導を行う。ポスターデザインの課題では、提示された内容の本質を分析して訴求性を備えたヴィジュアルとして表現する能力を培う。インフォグラフィックの課題では、調査で得られたデータを情報伝達の観点から効果的にヴィジュアライズする方法について学び、情報デザインにおける視覚表現の役割や位置づけについて理解を深める。今までのグラフィックデザインの授業で習得したタイポグラフィや、絵文字等による非言語コミュニケーションの知識・技術を用い、より豊かな視覚表現について学習する。【SDGs：9, 12, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ポスターデザイン：キャッチコピー立案 ② ポスターデザイン：コンセプト・アイデア立案 ③ ポスターデザイン：ラフ制作 ④ ポスターデザイン：プレ制作 ⑤ ポスターデザイン：プレ制作 ⑥ ポスターデザイン：本制作 ⑦ ポスターデザイン：本制作 ⑧ ポスターデザイン：成果発表 ⑨ インフォグラフィック：コンテンツ調査 ⑩ インフォグラフィック：コンセプト・アイデア立案 ⑪ インフォグラフィック：ラフ制作 ⑫ インフォグラフィック：プレ制作 ⑬ インフォグラフィック：プレ制作 ⑭ インフォグラフィック：本制作 ⑮ インフォグラフィック：本制作 ⑯ インフォグラフィック：成果発表 		
予復習等	【予習】授業で取り上げる課題テーマについて、あらかじめ先行事例の調査を行っておくこと。【復習】工程ごとに制作過程を振り返ること。		
評価方法	提出物80%、発表・プレゼンテーション10%、出席状況・受講態度10%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	授業内で適時紹介する。		

科目名	グラフィックデザインⅣ Graphic Design Ⅳ	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科VD専修（2年後期）	科目区分	演習
担当者	宮川 友子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	グラフィックデザイン領域の専門教育科目の総仕上げとし、今までに習得した知識・技術を用いてより実社会に即したデザインができることを目標とする。学生個々のデザイン能力の向上はもとより、チーム体制でのデザインワークの実施を通じて、プロジェクト遂行にあたって必要なコミュニケーション能力や、チームにおける各々の役割に応じたワークマネジメント能力、チーム運営能力の習得を目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり】実務においては、ものを作る過程でデザイナー個人が全ての工程を担当することはなく、ほとんどの場合チーム内での役割分担がありデザイナーはその専門領域を担当する。この授業では、仮想組織のVI（Visual Identity）デザインおよびアプリケーションアイテムのデザイン制作を通じて、企業等のチーム内におけるデザイナーのスタンスをリアルに体感し、個々による課題解決とチームによる課題解決の両面の手法を身につける。また、ユニバーサルデザインの観点から、誤解が少なくより多くの方にやさしいデザインを心がけて制作する。【SDGs：9, 12, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業概説、課題提示 ② デザインワーク／個人：コンセプト・アイデア立案 ③ デザインワーク／個人：ラフ制作 ④ デザインワーク／個人：プレ制作 ⑤ デザインワーク／個人：本制作、成果発表 ⑥ デザインワーク／チーム：包括的コンセプト策定、制作コンテンツ検討 ⑦ デザインワーク／チーム：ラフ制作（1） ⑧ デザインワーク／チーム：ラフ制作（2） ⑨ デザインワーク／チーム：第1回中間発表 ⑩ デザインワーク／チーム：プレ制作（1） ⑪ デザインワーク／チーム：プレ制作（2） ⑫ デザインワーク／チーム：第2回中間発表 ⑬ デザインワーク／チーム：本制作（1） ⑭ デザインワーク／チーム：本制作（2） ⑮ デザインワーク／チーム：本制作（3） ⑯ デザインワーク／チーム：成果発表 		
予復習等	【予習】授業で取り上げる課題テーマについて、あらかじめ先行事例の調査を行っておくこと。【復習】工程ごとに制作過程を振り返ること。		
評価方法	提出物80%、発表・プレゼンテーション10%、出席状況・受講態度10%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	授業内で適時紹介する。		

科目名	絵本・イラストレーション Picture Book and Illustration	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科VD専修（2年前期）	科目区分	演習
担当者	金田 典子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	コンセプトに基づいて様々な絵本を分析しながら情報収集をし、物語の表現方法やオリジナリティを追求してゆきます。鑑賞・講評では作者が絵本のプレゼンテーションを行い、絵本について分析レポートを作成します。普段の生活の中でも常に五感を研ぎすまし、様々な物事に関心を持ってください。新旧問わず素敵な絵本、面白い絵本を手に取り、絵、テキスト、企画、編集、ページ構成、製本等について学び、物語を表現するための各種技法を習得します。自己の感性を磨きながら独創的な表現、あなたの世界観を生かした絵本を作ります。		
授業概要	一枚のイラストレーションとしての完成度だけではなく、画面構成・ストーリー 展開・イラストの世界観を大切にし、作品に適した表現方法、画材等を研究します。また、市販の絵本の表現方法を分析し・製本方法を学びます。ミニ絵本、課題絵本を通してストーリー展開、作画のトレーニングを重ねながら個々の個性を生かしたオリジナル絵本を制作します。 【SDGs : 4, 10, 16】		
授業計画	① イントロダクション「絵本」について 作り方(1)市販の絵本の表現方法・製本方法を学ぶ ② (1) ミニ絵本 指定されたストーリーにそれぞれが作画し、彩色する。絵コンテ制作 ③ (2)ミニ絵本 (1)で制作した絵コンテをもとに作画制作、完成、製本 ④ ダミー絵本の制作(1) : 課題テーマの絵本作成(10ページ) 企画、構成、ラフ制作 ⑤ ダミー絵本の制作(2) : 発想、サムネイル、イメージスケッチ、絵本制作 ⑥ ダミー絵本の制作(3) : 企画、構成、絵本制作 ⑦ ダミー絵本の制作(4) : 製本について①プレゼンテーション/講評 ⑧ 絵本の制作 : 企画、構成、表現方法の検討、サムネイル、イメージスケッチ ⑨ 絵本の制作(1) : 企画、構成、ラフ制作、テキストのチェック ⑩ 絵本の制作(2) : 企画、構成、編集、ラフ制作 ⑪ 絵本の制作(3) : 原画制作 ⑫ 絵本の制作(4) : 原画制作 ⑬ 絵本の制作(5) : 原画制作 ⑭ 絵本の制作(6) : 製本について② ⑮ 絵本の制作(7) : 印刷、製本 ⑯ 定期試験 プレゼンテーション、講評		
予復習等	【予習】作り手側として多くの絵本を手に取り、市販の絵本のランキング、販売傾向、展示方法等のマーケットリサーチをしながら分析し、様々な絵本の表現方法を調査しましょう。 【復習】授業の到達目標を達成するために課外での制作も必要です。		
評価方法	制作プロセス(ラフスケッチやダミー制作)30%、作品に対する評価40%、授業内容に対する理解とプレゼンテーション30%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	コミュニケーションデザイン論Ⅱ Theory of Communication Design Ⅱ	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科VD専修（2年前期）	科目区分	講義
担当者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、コミュニケーション(=意思/感情/思考の伝達)を題材とし、ビジュアル・コミュニケーションを含めたコミュニケーション全体について理解を深めることを目的とする。特にリサーチ、プランニング、プレゼンテーションの各過程におけるスキル向上に重点をおいた授業計画を設定し、総合的コミュニケーションデザイン能力の向上を目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験:デザイン事務所にてプロモーション業務の従事経験あり】 本講義では、効果的な情報収集からその伝達・表現方法を重視し、デザイン展開を行う。特に、ビジュアルプレゼンテーションを戦略的に取り組むため、コピーとイメージの作成方法から、取材や調査を伴う客観的事実の論述まで、訴求力を高められるように展開していく。また、前半のプランニングはグループワークにて実施し、コミュニケーションについての再定義をプレストにて行い、後半は競合的発表を模して実施する等、実践的なプロモーションを意識し、総合的コミュニケーションデザイン能力の習得へと繋げる。 【SDGs : 4, 8, 9, 12】		
授業計画	① イントロダクション ② 表現のエレメント(1) -コピー ③ 表現のエレメント(2) -ビジュアル ④ コミュニケーションの定義 ⑤ コミュニケーションの提案(1) -テーマ設定 ⑥ コミュニケーションの提案(2) -コンセプト ⑦ コミュニケーションツールの設計(1) -スライド ⑧ コミュニケーションツールの設計(2) -プレゼン ⑨ 成果発表 ~プレゼンテーション~ ⑩ 情報収集と戦略的PR(1) -テーマ設定 ⑪ 情報収集と戦略的PR(2) -情報収集 ⑫ 情報収集と戦略的PR(3) -特徴抽出 ⑬ 情報収集と戦略的PR(4) -情報交換 ⑭ 情報収集と戦略的PR(5) -スライド制作 ⑮ 情報収集と戦略的PR(6) -プレゼン準備 ⑯ 成果発表 ~プレゼンテーション~		
予復習等	【予習】情報伝達方法および技術について、事前に調査を行っておくこと 【復習】提示された課題に取り組み、各週エスキースにて進捗を報告すること		
評価方法	出席状況・受講態度30%、提出作品・プレゼンテーションによる評価70%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	授業内で紹介する		

科目名	DTP演習 DTP Method	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科VD専修（2年前期）	科目区分	演習
担当者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>学生がDTPに必要なアプリケーションを使って書籍などの誌面デザインおよび台割を行い、作品制作・編集することにより、DTPに要する知識と技術を習得を目的とする。デジタルデザイン系の制作に必要なアプリケーションについて「CG演習」に引き続き学び、より実践的な課題に取り組む。到達目標は、既存印刷物と同程度の成果物が作成できるようにすることである。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィック／編集デザイン業務の従事経験あり】 Adobe社によるPostscriptの開発や、WYSIWYG（モニター画面と同じものが印刷される）技術が確立され、印刷技術のデジタル化が始まった。現在ではグラフィック系、画像編集系、レイアウト系の三つを用いたDTP（Desk Top Publishing）が印刷の主流である。 本講義では、台割を要する印刷作品を、コンピュータ上にて制作・編集することにより、DTPの知識と技術を習得する。 【SDGs：4, 8, 9, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション ② レイアウト・文字組について ③ 折りをういたリーフレットの制作（1）－ラフカンパ ④ 折りをういたリーフレットの制作（2）－要素配置 ⑤ 折りをういたリーフレットの制作（3）－調整 ⑥ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑦ 二色印刷・特色印刷について ⑧ 二色印刷・特色印刷によるフライヤー制作 ⑨ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑩ InDesign の基本操作（1） ⑪ InDesign の基本操作（2） ⑫ InDesign によるレイアウト編集 ⑬ 書籍の設計・制作（1）－マスター制作 ⑭ 書籍の設計・制作（2）－ページデザイン・編集 ⑮ 書籍の設計・制作（3）－エレメントデザイン ⑯ 書籍の設計・制作（4）－印刷・製本 		
予復習等	<p>【予習】既存の印刷物を観察し、表現の再現方法や代替方法を調査しておくこと 【復習】提示された課題に取り組み、各週エスキースにて進捗を報告すること</p>		
評価方法	出席状況・受講態度30%、提出作品・プレゼンテーションによる評価70%		
履修条件	「CG演習」の単位を取得していることが望ましい		
教科書	なし		
参考書	授業内で紹介する		

科目名	Webデザイン Web Design	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科VD専修（2年前期）	科目区分	演習
担当者	井口 仁長	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>HTMLとスタイルシート（CSS）の記述方法が理解できること、利用者を導くグラフィックスの作成や直感的で使いやすいユーザインタフェースの設計ができること、自分が思い描くページ（独自性を持つページ）が作成できることを目的とし、ウェブページやウェブサイトをデザインするための基本となる技術や知識の習得を到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公共施設や企業のウェブサイトを作成した経験あり。】 ウェブページ、あるいはウェブサイトのデザインでは、利用者が容易に情報を得ることができるよう情報整理・構築することと、見た目にも美しく、かつ心地の良い体験を与えることの両方が求められます。また、HTMLやCSS等のマークアップ言語を使ってページを作ること、絵筆を使って作ることに根本的に異なるため、記述言語に慣れていないと理解しづらいかも知れません。基本的には授業計画に沿って進めますが、他の科目と比べて知識や技術の差が大きく表れるため、個々の理解度に応じて個別に指導します。 【SDGs：9, 12, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ウェブデザインについて ② ウェブページの模写(1) グラフィックの作成 ③ ウェブページの模写(2) コーディング (HTML) ④ ウェブページの模写(3) コーディング (CSS) ⑤ プランニング(1) コンセプトメイキング ⑥ プランニング(2) 情報収集 ⑦ プランニング(3) アイディアスケッチ ⑧ ウェブサイト制作(1) プロトタイプの作成 ⑨ ウェブサイト制作(2) 素材の作成 ⑩ ウェブサイト制作(3) コーディング (HTML) ⑪ ウェブサイト制作(4) コーディング (HTML) ⑫ ウェブサイト制作(5) コーディング (CSS) ⑬ ウェブサイト制作(6) コーディング (CSS) ⑭ ウェブサイト制作(7) 中間チェック ⑮ ウェブサイト制作(8) 修正 ⑯ ウェブサイト制作(9) 発表 		
予復習等	<p>【予習】HTMLとCSSの記述方法をおさらいしておくこと。たくさんのウェブサイトを見ること。 【復習】授業項目は連続しているため、前回までの授業で行ったことを理解しておくこと。</p>		
評価方法	提出物80%、発表・プレゼンテーション10%、出席状況・受講態度10%		
履修条件	「情報デザイン論」の単位を取得していることが望ましい。		
教科書	なし。授業ごとにウェブページを配信、または資料を配布する。		
参考書	授業内に適時紹介する。		

科目名	デジタルデザイン表現 Digital Design Expression	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科VD専修（2年後期）	科目区分	演習
担当者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>学生が「CG演習」などのデジタルデザイン系科目で得た知識や技術を活用し、実践的な制作に取り組みつつ、デザイン業界で必要とされる柔軟な思考とレスポンス向上を図ることが目的である。課題の獲得からその解決の明示までを取り組み対象とし、より能動的な作品制作を実施する。またレギュレーションを理解し、実務者レベルとしてミーティング可能となる程度の知識を到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィック／編集デザイン業務の従事経験あり】 デジタルデバイスを用いて、実践的なデザイン制作を行っていく上で、自分自身の表現力と他者への伝達力の向上を計らなければならない。本講義では、技術や知識の習得だけではなく、デザイン業界で必要とされる柔軟な思考とレスポンスの向上を目指すため、前半はクリエイティブテスト形式を用いて、短時間型の課題を数多く行い、後半はデザイン現場で行われている制作方法と同一条件で、全15段の新聞広告の制作を行う。 【SDGs：4, 8, 9, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション ② 素材感の表現 ③ オリジナルブラシとシンボル ④ オリジナルパターンとグラデーション ⑤ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑥ 短時間での発想・制作・伝達 ⑦ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑧ 新聞全段広告の制作（1）－企業選定・調査 ⑨ 新聞全段広告の制作（2）－メインコピー ⑩ 新聞全段広告の制作（3）－ボディコピー ⑪ 新聞全段広告の制作（4）－カンパ制作 ⑫ 新聞全段広告の制作（5）－ヴィジュアル制作 ⑬ 新聞全段広告の制作（6）－フィニッシュワーク ⑭ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑮ クリエイティブテスト ⑯ 成果発表 ～プレゼンテーション～ 		
予復習等	<p>【予習】紙メディアにおける広告事例について調査を行っておくこと 【復習】提示された課題に取り組み、エスキースにて進捗を報告すること</p>		
評価方法	出席状況・受講態度30%、提出作品・プレゼンテーションによる評価70%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	授業内で紹介する		

科目名	生活環境学 Clothing Environment	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科（2年後期）【開放科目】	科目区分	講義
担当者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>快適で健康的・機能的な「衣環境」のあり方を人体の生理衛生の視点から理解し、健康に適した衣環境／住環境がどのような条件を備えたものであるかを知ることが目的とする。寒暖への適応性、運動動作への適応性、皮膚の生理・衛生の3つの視点から捉え、各条件に合った素材選択などをできるようにし、衣環境／住環境における健康問題を考えられるようにする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公設試で繊維材料の快適性に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】 衣服によって形成される「衣環境」や、住居によって形成される「住環境」は、人間を取り巻く自然、人工、社会、情報といった様々な環境と深く関わり、一番身近な個環境と位置づけられる。人間が生活する時には、人体生理、温熱環境条件、衣服気候、保温効果、室内気候、安全性など、人間を中心とした周囲環境との関係を理解することが重要である。日常生活の様々な場面における、健康で快適な生活環境のあり方を、人間の「第二の皮膚」といわれる衣環境を重点に、人間の側から考える。 【SDGs：3, 13】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 衣環境と住環境 ② 衣環境・住環境の快適性 ③ 暑さ寒さの快適性（1）体温とその調節 ④ 暑さ寒さの快適性（2）体内での熱移動 ⑤ 暑さ寒さの快適性（3）自律性体温調節反応 ⑥ 暑さ寒さの快適性（4）熱と水分の移動 ⑦ 衣服圧と快適性（1）人体の形状と運動変形 ⑧ 衣服圧と快適性（2）衣服圧と生理心理反応 ⑨ 衣服圧と快適性（3）衣服圧の生体への影響とメディカルテキスタイル ⑩ 皮膚の衛生と皮膚障害（1）皮膚の構造と生理 ⑪ 皮膚の衛生と皮膚障害（2）皮膚の汚染と衛生 ⑫ 皮膚の衛生と皮膚障害（3）衣服による皮膚障害 ⑬ 肌着の快適性と健康 ⑭ 寝衣と寝具の快適性と健康 ⑮ 履物と靴下の快適性と健康 ⑯ 期末試験（記述式 持ち込み不可） 		
予復習等	<p>【予習】解説予定の内容について、日常生活との関連について確認しておく 【復習】毎回配付される資料について、講義中解説した重要項目について復習する。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20%、期末試験80%で、総合判定する		
履修条件	なし		
教科書	『衣環境の科学』／田村照子編著／建帛社		
参考書	『基礎被服衛生学』／田村照子／文化出版局 『衣服と気候』／田村照子／成山堂		

科目名	テキスタイルデザイン Textile Design	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	衣服の企画、設計にあたって、その目的や用途に合った物性、風合い、色柄を備えたテキスタイルを適切に設計選択できるようにすることを目的とする。 ミニチュア織機を用いて簡単な織物の企画設計を行い、製織原理、テキスタイルにおける柄出しの原理について習得する。		
授業概要	【担当者の実務経験：公設試で中小企業向けテキスタイルの試作業務に従事】 生活材料としての繊維製品には、織物、編物、レース、皮革等があり、広い意味でのテキスタイルデザインは、糸の種類や色、布の柄組織やパターン、布の染色図案を考えて、布地全体のデザインをすることである。しかし、本来のテキスタイルデザインとは、織物の意匠・図案のことで、織柄デザインを意味する。テキスタイルデザインでは、織物のたて糸、よこ糸の使い方による織柄や、さまざまな組織の変化による織柄の基本について組織図を描いて修得するとともに、ミニチュア織機で小作品の制作を行う。 【SDGs：12】		
授業計画	① テキスタイルデザイン(素材)の概要説明 ② ミニチュア織機の使用法（1）平織 ③ ミニチュア織機の使用法（2）綾織／朱子織 ④ 織物の企画設計／課題作品の企画設計 ⑤ 課題作品の制作（1）・織物シミュレーション ⑥ 課題作品の制作（2） ⑦ 課題作品の制作（3） ⑧ 課題作品の制作（4）・仕上げ ⑨ ミニチュア織機の使用法（3）ヨコ2重織／つづれ織り ⑩ 自由作品の図案・企画設計 ⑪ 自由作品の制作（1） ⑫ 自由作品の制作（2） ⑬ 自由作品の制作（3） ⑭ 自由作品の制作（4） ⑮ 自由作品の制作（5）・仕上げ ⑯ 自由作品の発表とまとめの講義		
予復習等	【予習】制作作品の図案などについてあらかじめ準備しておくこと 【復習】企画設計通りに作品が制作できているかを確認し、次回の作業を計画しておく		
評価方法	出席状況・受講態度40%、作品の評価60%で総合判定する		
履修条件	緻密な作業が伴うので、根気を必要とする。		
教科書	概要を記したプリントを配布する。織機の使用にあたっては、解説書等を参考にする。		
参考書	『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅穂、古濱裕樹編著／アイケイコーポレーション 『ハンドウィービング』／文化出版局		

科目名	地域・環境デザイン論 Theory of Environment Design and Area Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	自分の生活の延長として、地域・環境デザインを学びます。具体的には、デザインの視点から、身の回りの環境から、公共空間、まち・地域、様々なスケールのへの視点を養います。低炭素都市の実現がなぜ必要なのか、バウビオロジーの考えや、岐阜市の取り組みといった様々な視点から都市を考えます。さらに、建築・都市空間ユニバーサルデザインを学ぶことにより自分がデザインしている対象を多くの立場や角度から見られるようになることを目標とします。		
授業概要	【担当者の実務経験：日・独の建築事務所にて住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】 普段私たちが使う建物と、地域に視点を置き、前半に「脱炭素社会をめざすまちづくり」後半に「建築・都市空間のユニバーサルデザイン」を学びます。 フィールドワークや見学では、2コマ連続で、大学の外に出ることもあります。大学近郊のまちや建物に赴き観察し、お互いの考えや意見を紹介し合うことで、他者の視点に気づき、理解を深めます。さらに、ユニバーサルデザインの概要を学んだ後、車椅子・アイマスク体験を行うことで、少しでも当事者の立場になつてものごとを捉え考えられる、気づきが得られることを期待しています。 【SDGs：3・4・5・11・12・13・15】		
授業計画	① ガイダンス ② 地域と環境について ③ バウビオロジーの視点から見るまちと住環境 ④ ドイツの脱炭素都市実現へのとりくみ ⑤ 脱炭素社会実現に向けた住宅の使命 ⑥ 見学 ⑦ 見学 ⑧ 岐阜のまちを考える ⑨ 生活環境とユニバーサルデザイン ⑩ 公共空間・住空間のユニバーサルデザイン ⑪ フィールドワーク・公共建築 ⑫ フィールドワーク・公共建築 ⑬ 車椅子・アイマスク体験 ⑭ 車椅子・アイマスク体験 ⑮ まちづくりのとりくみ最新情報 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。 【復習】授業で理解できなかった箇所を文献等で調べておくこと。		
評価方法	出席状況・授業態度30%、レポート・定期試験70%		
履修条件	見学の交通費、入場料は各自負担		
教科書	特になし		
参考書	適宜、資料を配布する。		

科目名	生活造形演習 Craft Design	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本演習では、地域素材である木や土を用いた手仕事で作ることができる生活道具に焦点を当て、デザインと製作を行う。対象物として、岐阜の木材を使った木のスプーン、土を用いたかまどなどの生活道具の制作をおこなう。さらに、事例収集、材料への理解、デザイン、制作、対象者の要望に応えるフィードバック、プレゼンテーションを通して、木や土の基礎知識とデザインプロセスを習得する。		
授業概要	【担当者の実務経験：建築事務所で住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】 課題1：スプーン制作 対象者を設定し、その人が使う木のスプーンを計画し、制作をおこなう。使用する木材は、岐阜大学位山演習林の間伐材を使用する。木材が建材や家具の材料として届く迄に、どのようなプロセスを経ているのか、林業と木材流通も理解する。課題2：土を用いたミニかまどのデザインと制作を行う。土台、本体下地、本体仕上げ、漆喰塗りの4回に分けて制作する。 【SDGs：4・5・11・12・13・15】		
授業計画	① ガイダンス ② スプーン1 ヒアリングして、デザインをする ③ スプーン2 木を切り出す、匙面を掘る ④ かまど1 土台づくり ⑤ スプーン3 削り出す ⑥ スプーン4 使い心地のヒアリングとフィードバック ⑦ かまど2 本体下地 ⑧ スプーン4 使い心地のヒアリングとフィードバック ⑨ 見学 ⑩ 見学 ⑪ かまど3 本体仕上げ ⑫ スプーン5 再度の使い心地のヒアリング ⑬ スプーン6 フィードバックと仕上げ ⑭ レポート ⑮ かまど4 漆喰塗り 講評会		
予復習等	【予習】事例収集、対象者へのスプーンの要望ヒアリング等 【復習】演習時間内で出来なかった作業の補足等		
評価方法	出席状況・授業態度30%、課題70%		
履修条件	交通費および、材料費の負担が必要。定員を15名とする。		
教科書	特になし		
参考書			

科目名	広告デザイン論 Theory of Advertisement Design	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	折戸 加奈子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	世の中には様々な広告デザインがあふれています。これら広告デザインにはいろいろな意味が隠されており、本講義では、そんな広告デザインの意味と役割について「ひもといて」いきます。その中で、広告デザインへの理解を深めることにより、デザインは“つなげる”ものだとより強く実感し、実務の現場において、クライアントの思いを汲み取る事とコミュニケーション能力が重要で、クライアントの思いをデザインする過程において、何が必要かを事例紹介とワークショップを通じ、双方向のコミュニケーション能力を高め行動して行くことを到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験】デザイン事務所経営でコンセプトデザイン業務に従事。また、県、市等での審査員や有識者としての審査業務多数経験。【授業概要】②から⑨のテーマについては世界、日本の中で気になる工芸品を選択し一人一人の発想、思いを感じ取るための発表の場を設ける。④から⑨のテーマについては各媒体の中で気になるデザインを選択し一人一人の発想、思いを感じ取るための発表の場を設ける。授業方法では企画のプレゼンに際しての、双方向を意識し自分以外の発想を理解し意識向上を目指すのが目的としており、実社会に出た時の最優先事項であるコミュニケーション能力、自分の意見を持つことへの大切さを学びながらデザイン（全ての事象）には意味があることを習得。授業の目的の繰り返しの確認と感性を活かす事で⑩から⑱のワークショップに繋げ履修する事。開講順と開講テーマは変更される場合がある。 【SDGs：1から17すべて該当】		
授業計画	① デザインには意味がある導入1 ② デザインには意味がある導入2（世界のデザイン史） ③ デザインには意味がある導入3（日本のデザイン史） ④ どう伝える？-媒体をひもとく1-サイン看板 ⑤ どう伝える？-媒体をひもとく2-ロゴマーク ⑥ どう伝える？-媒体をひもとく3-新聞媒体ロゴマーク ⑦ どう伝える？-媒体をひもとく4-紙媒体 ⑧ どう伝える？-媒体をひもとく5-パッケージ ⑨ どう伝える？-媒体をひもとく6-ホームページ ⑩ 演習:制作(1) 企画骨子の草案 ⑪ 演習:制作(2) ラフ制作（伝える・発見1） ⑫ 演習:制作(3) ラフ制作（伝える・発見2） ⑬ 演習:制作(4) ラフ制作（伝える・発見3） ⑭ 演習:制作(5) ラフ制作（伝える・表現4） ⑮ プレゼンテーション&講評（受講人数により変更有） ⑯ 全体講評・まとめ（受講人数により変更有）		
予復習等	【予習】②から⑨のテーマについて簡単なエクササイズレポートを記入 【復習】特になし		
評価方法	出席状況20%・授業態度20%、プレゼンテーション30%・提出物30%		
履修条件	制作に必要な画材は各自負担		
教科書	なし		
参考書	適時案内		

科目名	卒業研究 [生デ]	単位数	4
	Graduation Thesis/Graduation Works	必選区分	必修
開講学科	生活デザイン学科（2年全期）	科目区分	演習
担当者	生活デザイン学科教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	2年間の集大成として、これまで学んできた知識・技能をもとに、社会的背景や既往の研究と関連付けて世の中の問題点や興味・関心事を取り上げ主体的に研究テーマを設定し、解決・提案できる能力を習得することを目的とする。全期にわたって計画的に研究・制作を遂行し、論理的に展開するとともにプレゼンテーション能力を会得する。		
授業概要	【担当者の実務経験：2、4～6、8の研究室は実務経験のある講師が担当】 生活デザイン学科で習得する知識、技術を生かして、総合的に研究、制作に取り組む。 1年次、12月に開催される2年生の卒業研究発表会・展示会で、研究発表や制作作品を聴講または見学し、1月に研究室の希望調査書を提出する。研究室ごとの人数を調整後、配属する研究室を決定する。所属する専修以外の研究室を選択することも可能である。1年次全期の科目の成績で配属先を調整することがある。 2年次進級後、各自の配属研究室で、担当教員と相談の上研究テーマを設定し、年間を通じて研究活動、制作活動を行う。 【SDGs：1, 9, 11, 12, 17】		
授業計画	①（1）研究テーマの設定、活動計画立案 ②（2）中間発表会（夏季休業中に開催） ③（3）卒業研究発表会（口頭発表・ショー発表、作品展示） ④（4）記録集の写真撮影と、要旨集の提出（研究室によっては論文集を作成する） ⑤ 研究室 ⑥ 1. ファッション造形・デザイン研究室 ⑦ 2. 材料学研究室 ⑧ 3. ファッションクリエイティブ研究室 ⑨ 4. 建築・環境デザイン研究室 ⑩ 5. 建築・地域デザイン研究室 ⑪ 6. 建築構造・材料研究室 ⑫ 7. インテリアデザイン研究室 ⑬ 8. グラフィックデザイン研究室 ⑭ 9. メディアデザイン研究室 ⑮ 10. 情報デザイン研究室 ⑯		
予復習等	【予習】担当教員の指導による。 【復習】担当教員の指導による。		
評価方法	研究、制作過程や成果を判定し、担当教員が決定する。		
履修条件	12月の卒業研究発表会・展示会を必ず聴講・見学すること。1年次の専門教育科目のうち、必修科目について80%を超える単位を取得していること。		
教科書	担当教員による。		
参考書	担当教員による。		

科目名	インターンシップ Internship	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科（2年全期）	科目区分	集中
担当者	福村 愛美	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	企業人としての実務を体験することによって職業意識を高めるとともに、企業・職種とのマッチングを見極める機会とする。さらに、企業研修をとおして、学ぶことの意味を問い直し、学習意欲の向上に結びつける。		
授業概要	それぞれの専門分野に応じた企業、または将来の職業に関連した企業で、一定期間企業研修を受ける。長期休暇を利用した研修が望ましい。 【SDGs：8】		
授業計画	インターンシップ申し込みから実施までの流れ 1. 担任が4月のガイダンスで、概要を説明する。 2. 研修を希望する学生は、研修希望の企業を、担任をとおして進路支援委員の教員に伝える。 3. 学生は、インターンシップ登録カードを担任に提出する。 4. 進路支援委員は、受け入れ企業との調整を行う。 5. 企業研修（1週間） 6. 研修終了後、研修日誌を担任へ提出する。 7. 進路支援委員、教務委員は、担任に提出された研修日誌、受け入れ企業担当者の評価をもとに、成績判定、単位認定を行う。		
予復習等	【予習】研修先企業・事業所について研究する。 【復習】研修内容について日誌記入を通して確認を行い、翌日の研修に備えて課題を進める。		
評価方法	研修日誌（60%）、受け入れ企業担当者の評価（40%）を総合して評価する。		
履修条件	1日8時間、実質5日間の研修を体験し、研修日誌を提出する。		
教科書			
参考書			